

# ひょうご花緑創造プラン 基本目標の達成状況

# 基本目標とその達成状況

	基本目標	達成状況
1	<b>身近な花と緑に満足する人の割合を増やす</b> [プラン策定時:約65% R2中間年実績:78.8%]	○ 目標70% 実績 <b>71.2%</b>
2	<b>市街化区域の緑地割合3割の維持</b> [プラン策定時:30.6% R2中間年実績:30.3%]	▲ 目標30% 実績 <b>28.8%</b>
3	<b>人口集中地区の緑地割合25%の確保</b> [プラン策定時:23.9% R2中間年実績:24.6%]	▲ 目標25% 実績 <b>24.8%</b>

- 満足度については、プラン策定時と比較して約6ポイント増加し、目標を達成
- 都市部における緑地割合に係る二つの目標については、未達成
  - ・市街化区域の緑地割合はプラン策定時から1.8ポイント減少し、3割を維持できず
  - ・人口集中地区の緑地割合はプラン策定時から0.9ポイント増加したものの、25%には至らず

# 基本目標 1 身近な花緑の満足度

## 身近な花緑の満足度の目標と実績

プラン策定時	中間年	最終
65.1%	実績 78.8%	実績 <b>71.2%</b>
	目標 67.5%	目標 70.0%

- 県民モニター調査において、「住まいの周辺や職場、学校など身近なところでの緑に満足しているか」の問いに「満足」「まあ満足」と答えた人の割合
- プラン策定時と比較して約6ポイント上昇
- ただし、中間年の調査結果（78.8%）からは減少

※ ・ 調査時期の違い（中間年は5月、今回は7月）や、近年の緑に対する県民の意識の高まり（⇒後述）が結果に影響を及ぼした可能性あり  
 ・ 県民モニター（2,500名程度）は毎年、2割程度が入れ替わることに留意が必要

## 身近な花と緑に満足する人の割合の推移 （県民モニター調査）



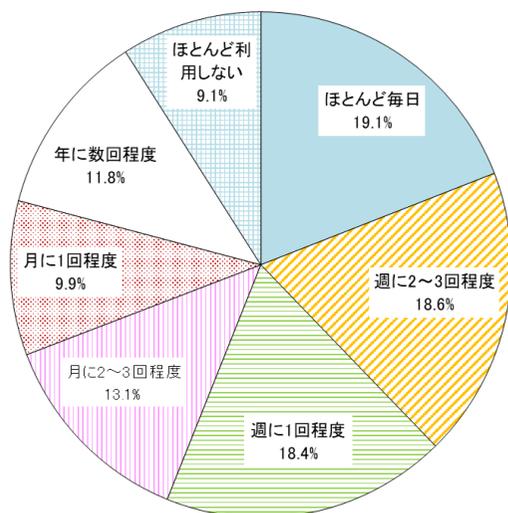
# 基本目標 1 身近な花緑の満足度

## 「緑のある空間の利用頻度」と満足度との関係

～緑と親しむ機会が多い人ほど満足度が高い～

### 緑のある空間の利用頻度

(令和6年度第2回県民モニター調査)



### 「緑のある空間の利用頻度」 × 「身近な花緑の満足度」



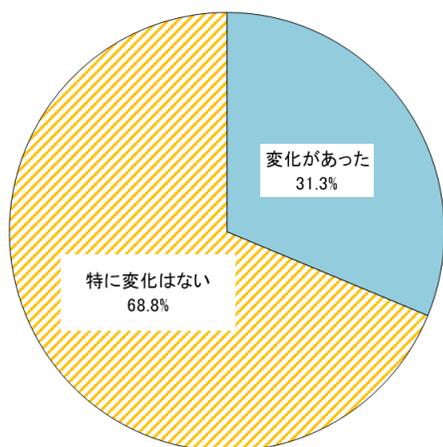
- 緑のある空間を月に1回程度以上利用する層においては、利用頻度が高いほど満足度が高くなる。
- 週に1回程度以上利用する層の満足度は概ね70%を超える。
- 利用頻度が週に2～3回程度以上になると、満足度は75%以上と大きく向上する。

# 基本目標 1 身近な花緑の満足度

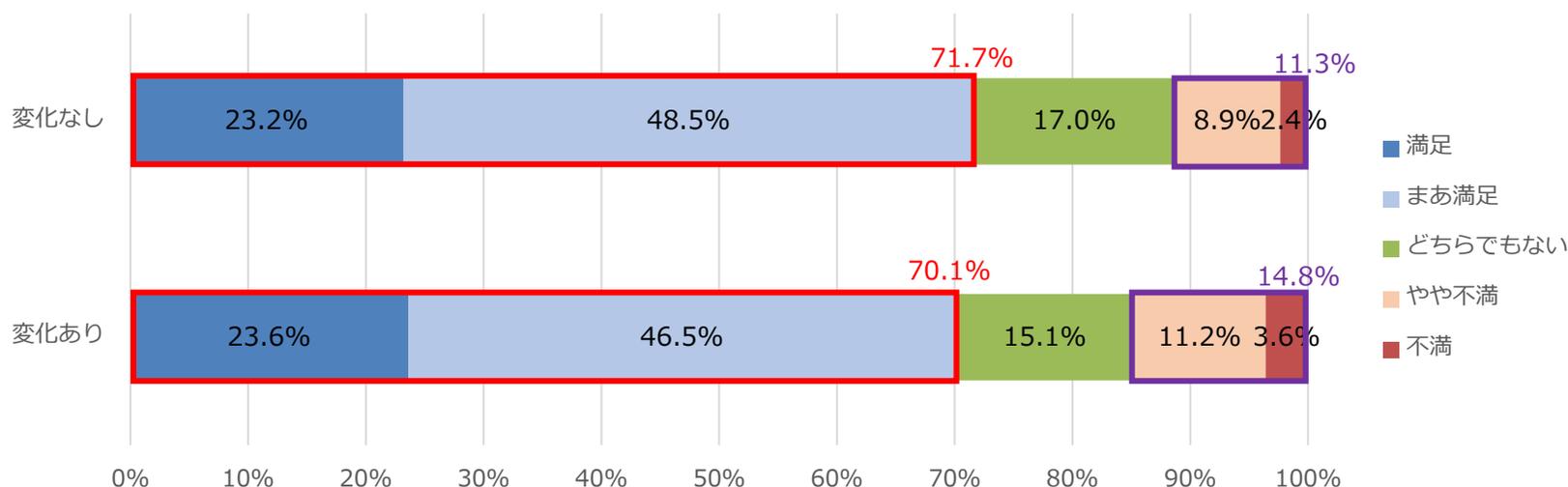
## 「緑に関する意識・行動の変化」と満足度との関係

～意識・行動に変化があった人は満足度がやや低い～

緑に関する意識・行動の変化  
(令和6年度第2回県民モニター調査)



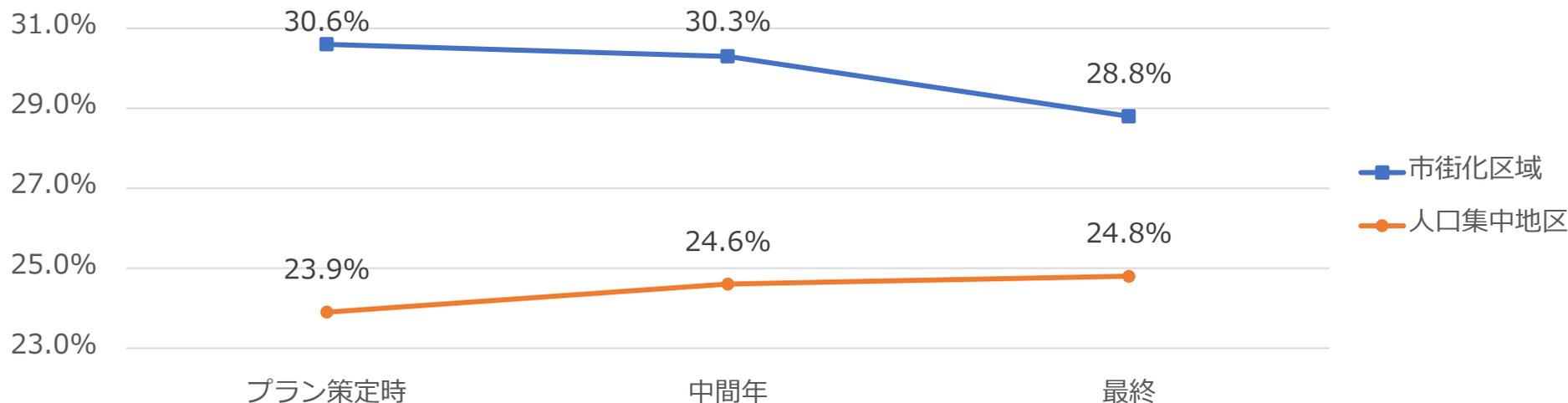
「緑に関する意識・行動の変化」 × 「身近な花緑の満足度」



- SDGsの理念の浸透やコロナ禍の経験を経て、緑に関する意識・行動について、3割超「変化があった」と回答。
  - 「変化があった」と回答した人は、「変化はない」と回答した人に比べ、満足度（満足+まあ満足）が1.6ポイント低く、不満度（不満+やや不満）が3.5ポイント高い。
- ⇒ 県民の緑への関心が高まった結果、緑に対する要求度合いが上がり、これが満足度を減少させた要因のひとつとなっている可能性がある。

## 基本目標 2・3 市街化区域・人口集中地区における緑地割合

都市部における緑地割合の推移（緑被状況調査）



注) 緑地割合は衛星画像データをポリゴン化して算出した推計値。解析に用いる画像データは調査時期によって異なる衛星のものであること、また、市街化区域の拡大・縮小、区域区分線の精度向上等による影響が生じることなどには留意が必要。

- 市街化区域の緑地割合は、プラン策定時から減少傾向にある。
- 山林開発事業による大規模な住宅地の建設や市街化区域内の農地転用をはじめとした開発によって減少した緑地面積の方が、法令（環境条例等）の規定や県民まちなみ緑化事業等により整備された緑地面積よりも大きいことが要因と考えられる。
- 一方、人口集中地区の緑地割合は、目標には達しなかったものの、微増傾向にある。
- 人口集中地区においては、もともと樹木地、農地等の既存緑地が少ないことや、一定規模以上の建築物等を新築する際、法令（環境条例等）の規定に基づき、屋上、敷地等に一定の緑地が整備されることが要因と考えられる。

## 基本目標 2・3 市街化区域・人口集中地区における緑地割合

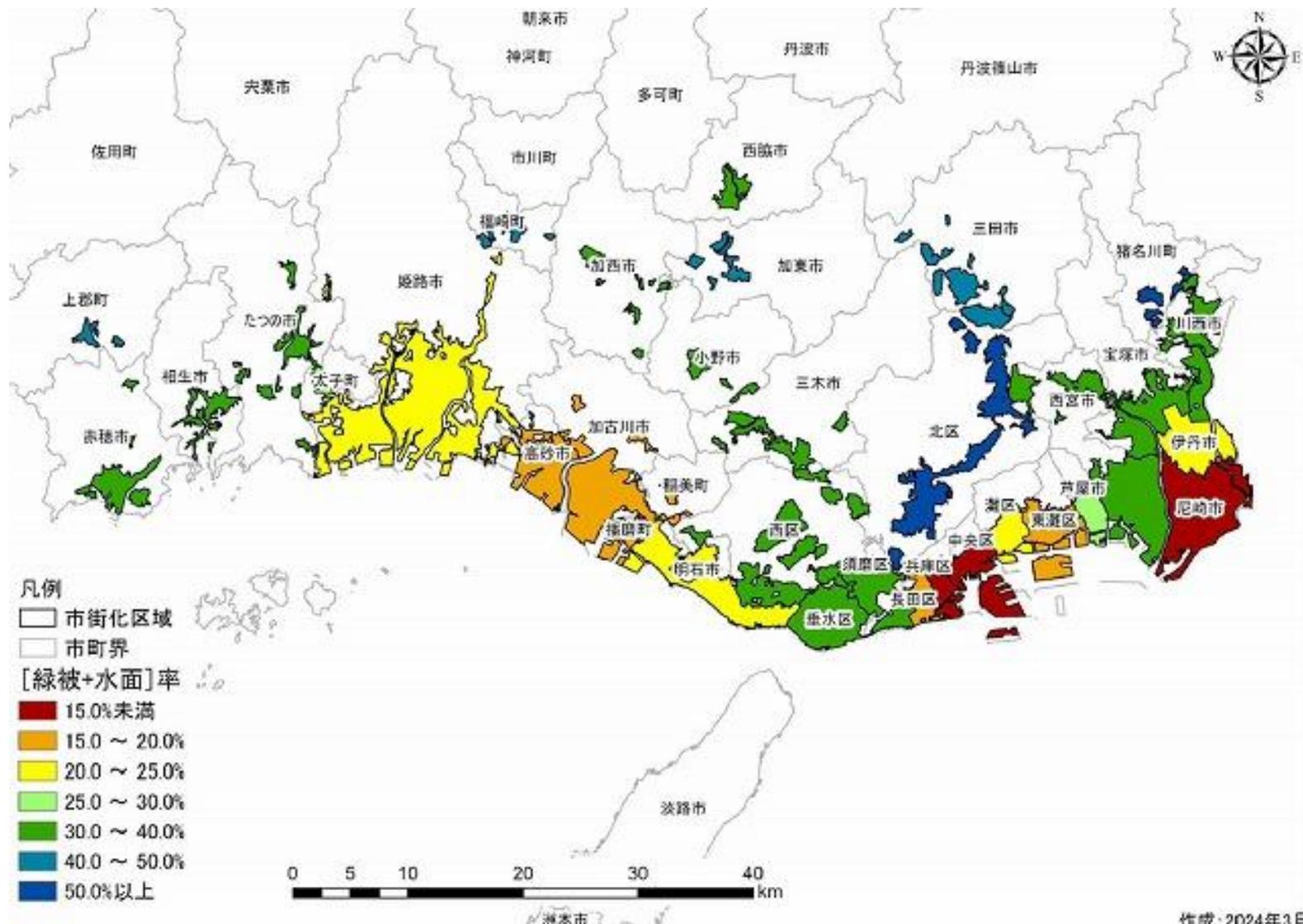
緑被状況調査における市街化区域及び人口集中地区の面積の推移

(単位：ha)

		中間年	最終	備考
市街化 区域	緑地 (緑被+水面)	21,564	20,527	約4.8%減 (△1,037)
	全域	71,230	71,219	概ね横ばい (△11)
人口集中 地区	緑地 (緑被+水面)	14,375	14,877	約3.5%増 (+502)
	全域	58,359	60,099	約3.0%増 (+1,740)

## 基本目標 2 市街化区域における緑地割合

### 市町別 市街化区域の緑地割合



- 市街化区域の緑地割合は市町によってバラつきが大きい。  
(人口集中地区の緑地割合も同様)

## 基本目標 2 市街化区域における緑地割合

### 市町別市街化区域の緑地割合と地域別満足度

	緑地割合	目標との差	地域別満足度 (県民モニター調査)
神戸市	32.2		神戸 74.4%
尼崎市	14.7	▲ 15.3	阪神南 69.1%
西宮市	30.5		
芦屋市	25.3	▲ 4.7	
伊丹市	25.0	▲ 5.0	
宝塚市	37.9		阪神北 73.0%
川西市	40.0		
三田市	47.2		
猪名川町	61.0		
明石市	20.6	▲ 9.4	東播磨 66.8%
加古川市	17.0	▲ 13.0	
高砂市	18.4	▲ 11.6	
稲美町	19.3	▲ 10.7	
播磨町	16.7	▲ 13.3	
西脇市	36.3		北播磨 80.5%
三木市	35.5		
小野市	39.5		
加西市	37.9		
加東市	43.6		中播磨 61.6%
姫路市	24.1	▲ 5.9	
福崎町	43.2		西播磨 69.5%
相生市	39.8		
赤穂市	36.1		
たつの市	36.6		
太子町	25.7	▲ 4.3	
上郡町	48.1		
全県	28.8	▲ 1.2	71.2%

## 緑地割合と満足度との関係

～緑地割合が低い地域は満足度が低い傾向～

- 市街化区域の緑地割合が30%を下回る市町がある地域の多くは、地域別満足度が70%を下回る。
- 全ての市において緑地割合が30%を超える北播磨地域は、最も満足度が高く、80%を超える。
- 都市部においては、緑地割合と身近な花緑の満足度には一定の関連性が認められると考えられる。

※但馬（満足度64.9%）、丹波（同78.8%）、淡路（同71.1%）の各地域には市街化区域なし